

マゴソ通信



コロナウィルス、猛烈な雨、930hPa を切る台風、オンライン〇〇・・・自分が経験したことのないことが次から次へとやってきて、それをどのように受け止めていけばいいのか。「当たり前」とか「普通」とかの言葉が通じない。こういう時だからこそ、情報を見極め、自分で考え、判断していくことが大切なのではないかと感じるこの頃です。

マゴソスクールも、今までにない状況にあります、「くよくよしてるヒマもないし、嘆いていても何も解決にはならないので、前向きに対処していく。」という早川さんの言葉どおり、前向きにどんどん動いています。

この活動を大きく支えているのが皆様からのご支援です。サポーターになってくださったたり、何度も寄付をしてくださったたり、この数か月、たくさんのお礼状を書かせていただきました。心から感謝申し上げます。

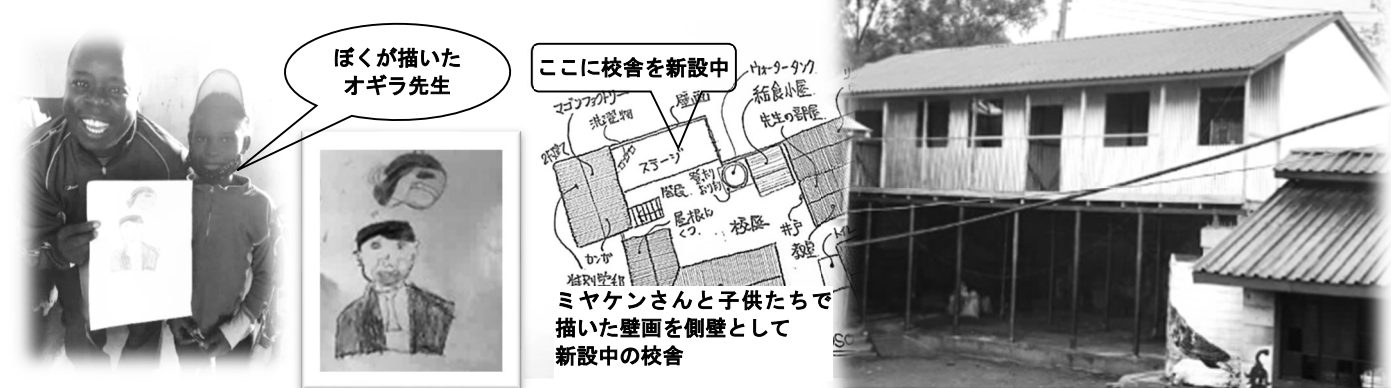
「マゴソスクールは建物ではなく人。スラムの奥で困っている子供たちがよりよい人生を送れるように、コミュニティの力になれるように、みんなで力を合わせて平等に生きていくことができるように、教育を提供していくのがマゴソスクールである。」と早川さんは言いました。この視点を忘れずに、支える会として活動をしていきたいと思ひます、今後ともよろしくお願い申し上げます。

皆様の日々の生活はいかがでしょう？お一人お一人の状況は異なると思いますが、落ち着いた日々になりますようお祈りしております。

マゴソスクールを支える会 会報等担当者

支える会からのお知らせとお願い

- ✧ 2020年9月現在のサポーター数は411名です。
- ✧ ご友人等にご紹介のため、パンフレット・会報等が入用な場合は事務局までご連絡ください。
- ✧ 会報は、会員の方、アンケートに答えてくださった方、名刺を頂戴した方、寄付を頂いた方、様々な形でご支援してくださる方、皆様に送らせていただいております。会報が重複して届いたり、不要な場合は、事務局までお知らせいただければありがたく思います。
- ✧ 振込用紙は発送作業の都合上、全員に入れさせていただいております。ご了承ください。
- ✧ 会費の領収書は発行しておりませんが、必要な場合は事務局までお知らせください。専従スタッフがおりませんため、ご寄付のお礼(領収書)の発送が遅れますことお詫び申し上げます。
- ✧ 皆様からの会費やご寄付はすべてマゴソスクールに送り、会報の印刷・郵送には使っておりません。会報の郵送のために、未使用切手やはがきを会の事務局に送って頂くなど、ご協力いただければありがたく思います。また、お送りくださった皆様、ありがとうございます。
- ✧ マゴソスクールへの支援物資は、支える会では受け付けておりません。



マゴソスクールを支える会

事務局 〒511-0044 三重県桑名市大字萱町54-1

Mail: info@magoso.jp

HP: <http://magoso.jp/>

Facebook: <https://www.facebook.com/magososupportersclub/>

寄付振込先

【郵便局】 マゴソスクールを支える会

口座番号: 00810-9-216335

(記号: 00810 番号: 216335)

【ゆうちょ銀行】 マゴソスクールを支える会

〇八九(ゼロハチキュウ)店

当座 0216335

マゴソスクール活動報告

1. 寄付等の使途報告

4月22日に早川さんがフェイスブックで食料支援について報告して以降、50名以上の方が新たにサポーターになってくださったり、たくさんの方から寄付を頂戴したりしております。おかげさまで、以下の表のとおり、食料支援、学校再開に向けての改装等の費用を賄うことができております。最終的には、2020年度の会計報告で報告させていただきます。

項 目		内 容	費 用
コロナ禍生活支援		・食料・日用品支援を4月より開始。現在、支援対象はマゴソスクール生徒家庭・キベラスラム貧困家庭など1123世帯。その他、ジュンバラワット、ミリティーニ村などでも実施。 ・支援方法はバウチャー配布、食料・日用品現物支給、必要経費支給など。 ・実施回数 バウチャー配布6回、個別支援 41回、ジュンバ・ミリティーニ支援 各5回、他地域支援 1回 ・その他 スタッフ活動経費、子供たちの学習支援費など	約330万円
ジュンバラワット改装		・部屋の拡張 ・ベランダやホールを子ども部屋に改築・トイレの増設 ・ベッドの追加 ・ウォッシュポイントの作成	約115万円
マゴソ スクール	教室増設	・お店、洋裁教室、2F職員室、2Fガールズクラブ、図書室の半分を教室に改装。 ・2階建てを新設し、その2階に教室	約140万円
	改装	・雨どい・ハンドウォッシングポイント・手すり・水タンクなどの設置 ・窓と扉をサイズの大きいものに取り換え	約50万円
	机と教科書	・机を3人掛けから1人用に変更（320人分作成可能） ・新規に180人分の1人掛けの椅子と机の新調 ・教科書 3人で1冊使用していたが全員分購入	約370万円

2. 早川千晶さんからの報告

この度の新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態におきまして、数多くの皆様がキベラスラムの人々を心配して「マゴソスクールを支える会」にご寄付をお送りいただいたことに心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

7月下旬よりナイロビのロックダウン解除、および8月1日より制限付きで国際線が再開されましたが、夜間外出禁止令は継続されています。

貧困家庭の子どもたちが学校という居場所を失ったことで起きた問題は想像以上に大きく、食料不足による飢えはもとより、仕事を失った親が家にいるためにそのストレスによる虐待、女子の妊娠などの問題が拡大し、その精神的、身体的なケアをするために、マゴソスクールでは政府の規制解除を待たずにマゴソスクールでの活動を7月上旬より開始しました。また、学校を閉鎖しなければならなかった3月から7月までの

間も、各教員が各家庭に子どもたちの居場所作りをして、様々な場所で子どもたちの精神的な助けになるホームライブラリ活動や、補習授業、カウンセリング、運動などを続けてきました。

7月からのマゴソスクールでの活動は、妊娠や病気の危機にある12歳以上の女子生徒を中心として開始しましたが、男子生徒や小さな子どもたちも大勢が助けを求めにやってきたため、出来るだけ多くの子どもたちを受け入れるようにしてきましたが、度々警察がやってきて、逮捕の危機に接しながらの活動となっています。これは現在も続いており、この活動がスラムの多くの子どもたちや若者たちの唯一の救いとなっています。

私が訪問を続けたスラムの家庭では、もしもこの食料配布が無ければ、とうの昔に家族全員が飢え死にしていたと何度も言われました。誰もが非常に感謝しています。また、子どもたちがこのような状況において居場所を得られるということは、子どもた



給食再開 笑顔はじける！！



ジョンワニョイケさんのワイヤービーズ細工教室

ちだけではなくその家庭そのものにも非常に大きな救いになります。

この文章を書いている9月20日現在も、感染は続いており、夜間外出禁止令を含む様々な規制も継続しています。そこで我々はスラムでのサポートをこれからも継続していきますが、3月からこれまでの多大なご支援への中間報告としてこれまでの使用金額（1. 使途報告参照）をお伝えいたします。

キベラスラムの中で活動するマゴソスクールに対しては、ケニア政府からの資金的なサポートは一切なく、子どもたちや教員、スタッフの家庭への支援ありません。また、マゴソスクール以外の数多くのキベラスラムで活動していた学校はコロナ禍で資金的に持ちこたえることができずに永久に閉鎖しました。そのため、自分が通っていた学校がつぶれてしまった子どもたちや保護者が、編入先を求めて毎日数多くマゴソスクールに助けを求めにやってきます。そんな中で、マゴソスクールはキベラスラムの子どもたちにとって、非常に貴重な学び舎であり、子どもたちや貧困者の救済の場です。

政府から学校再開に向けてのスケジュールが正式発表されたら、各学校や児童養護施設は活動を再開するためには、換気、ソーシャルディスタンスを取る、手洗い場の設置、トイレの増設、浄化槽や下水処理の整備、教室や宿舍の拡大、一部屋ごとの人数制限、食事をする場所の衛生状態の改善などの対策を取らなければならない、スペースに限りがあり距離を取ることが非常に難しいスラムであっても、それを整えなければ再開が許可されません。

そこで、その対策のために8月からマゴソスクールとジュンバ・ラ・ワトトにおいて増築、改装の工事を開始しました。また、これまで3人掛けであった机と椅子を1人掛けのものに作り替えること、3人で1冊の教科書を使っていたところ1人1冊ずつの教科書を用意しなければならないこと、2人で1台のベッドを使用していたところを、1人1台ずつのベッドを用意しなければならないこと、これらの対応をすべて緊急に整えなければなりません。

コロナ禍で政府が発表した「2021年1月学校再開」に向けての準備をしていくつもりでしたが、急に政府方針が変更になり、これから6週間で学校が

再開できるための条件を整えるようにと各学校への要請が出ています。

（政府の正式発表は近日中と言われてすでに何週間もがたち、まだ正式にはスケジュールは発表されていません。）現在は、食料配布や子どもたちのケアも進めながらも、急ピッチで学校や施設の改装、増築工事を進めているところです。

コロナ禍の食料配布、スラム住民生活支援 状況に応じてこの建設の対応を行いながらも、コロナ禍の支援や、補習授業、子どもたちへの給食、カウンセリングなどを継続して行っています。また、マゴソスクールの教員やスタッフへの給料は継続して支払いをしています。

また、このコロナ禍での様々な対応において、マゴソスクールの卒業生である「マゴソ BOG クラブ」の高校生や大学生たち、そして、マゴソスクールの高学年の6年、7年、8年生の生徒たちが様々な形で手伝いを続け、非常に大きな助けとなりました。

非常に不安な危機的な状況であっても、スラムの人々が決してパニックにならず、絶望することもなく、お互いに助け合い、食料を分け合い、いたわり合って共に生き抜いていこうとする姿がそこにありました。

皆様からの継続的なご支援に心から感謝すると同時に、このマゴソスクールの生徒たち、卒業生、教員やスタッフ、その家族の頑張りを、どうか励まし応援いただけますと心からありがたく思います。

世界中の皆様も、どうか一日も早く平穏な毎日が戻りますよう、そして健康に不安なく毎日を過ごされますよう、心からお祈り申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

2020年9月20日



新しく出来てきた
一人掛け机・椅子

アートクラブ作品
カラーでないのが残念



編み込みヘア練習中



どんな時も笑顔のオギラ先生、
早川さん、リリアン、ダン先生

つながり合って続ける支援

～ペンギン会「ペンション・サポート」を通じて～

支援をしてくださっている荒井俊子様よりお手紙を頂戴しましたので、ご紹介させていただきます。
ペンギン会「ペンション・サポート」についてのお問い合わせは、ご本人までお願いします。

荒井俊子様 tocchan_a@ezweb.ne.jp

私たちは8年前にピースボトで早川さんと出会い、以来互いにわずかな支援を続けながらマゴソスクールへの関心をもち続けてきました。このグループメンバーは北海道から福岡まで50代～70代の8名で、互いに各地で各々の活動や仕事をしています。

そして昨年 私たちもようやく現地ツアーに参加し、マゴソスクールを訪問することができました。子どもたちの弾けるような歓迎の音楽に心震わせながら、彼らが逞しく学ぶ姿に接して熱い思いを持ち帰りました。

以来 マゴソでは1年を通して実施されている学校給食が、子どもたちとその家族の命をもつなぐという大切な役割を知り、わずかずつでも支援させていただくことが私たちの日々の心の支えとなっていました。

しかし今年はコロナ禍で閉鎖となってしまった状況下の「マゴソ通信」によれば、給食支援が受けられない子どもたちとその家族が、感染よりも水や食料不足の深刻さで飢えてしまう危機的状況が切実であることを知りました。

マゴソの先生方やOBOGの皆さんの尽力で、食料受給のバウチャーを配布してくださっていることに感謝です。しかもそのバウチャーで食料を受け取った家族が隣近所でそれらをシェアし合っていると聞いて、どうか一人でも多くの方々がわずかずつでもお腹を満たしていただけますよう、元気で生き延びていただきたいと願う日々です。

またこの7月の政府の発表によると、ケニア全国の学校閉鎖は来年1月までと決まったようです。しかも学校再開には、教室の生徒数制限や個別机の使用なども必要となり、更に必要経費は莫大にかさみます。

その結果 私たちがこれまでより更に力を入れてこの支援を続けていくには、従来通りの漫然とした支援では会の資金がたちまち底をついてしまうのではないかと心配になります。

そこで早川さんの報告をグループメールで共有しながら、私たちはオンラインでの話し合いを続けました。その結果、共に手を携えて自分たちの生活の基盤をシェアする意で、より積極的に継続的な支援をしてゆこうという方法を考えました。それが以下の「ペンション・サポート」です。

この方法は

2ヶ月ごとの年金受給日に、自分たちの生活のために引き出すついでにマゴソ支援にも少しずつ送っていくというものです。

もちろんメンバー全員が毎回必ず送らなければならない訳ではありません。「出来るときに、出来る範囲で」はこれまでと変わりません。ただ年金受給の偶数月には、自分たちの仲間も何らかの形で支援のことを考えているという思いを共有し、マゴソに関心に向けて手を繋ぎ合っている確認ができるという、そんな気分になれる訳です。

今日本の雇用問題も厳しくなっていますし、私たち団塊世代の年金は今後どんどん減額され、老後のゆとりなど先細りは目に見えています。しかしキベラの人々に比べれば、日本はまだまだきれいな水や、雨露をしのぐ安全な生活場所にも比較的恵まれていると言えるでしょう。そんな、たまたま少し恵まれた国で暮らせる幸運を、これからも厳しい状況と戦う人々とシェアしていけたらと願っています。



今日の給食はバナナ



改装工事が始まったジュンバラワト



音楽クラブの子供たちとオギラ先生



ソーシャルディスタンスをとって
給食を待つ